

CVP サーバおよびコール スタジオ JRE/Java サポート、互換性、アップグレード ポリシーおよびファイル

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[サポートおよび互換性](#)

[CVP コール スタジオ](#)

[CVP サーバ](#)

[CVP のアップグレード プロセス](#)

[JRE のマイナーなアップデート](#)

[アップグレード手順](#)

[JRE の主要なアップグレード](#)

[対策](#)

[アップグレード手順](#)

[フェールバック ステップ](#)

概要

資料は Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) およびコール スタジオで Java サポート、互換性および主要なアップグレード ステップを提供したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- CVP
- コール スタジオ
- Microsoft Windows

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CVP
- コール スタジオ バージョン 8.5 および それ 以降

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

サポートおよび互換性

CVP コール スタジオ

この表に言及されているようにサポートされたデフォルト Java ランタイム環境 (JRE) バージョンを実行して下さい:

CVP スタジオ バージョン	デフォルト JRE バージョン
8.5(1)	1.6
9.0(1)	1.6
10.0(1)	1.6
10.5(1)	1.7

注: JRE アップグレードはコール スタジオでサポートされません。この制限は JRE の以降のバージョンをサポートしないプラグインおよび食が原因です。

CVP サーバ

サポートされた JRE バージョンの現在の一覧はこの表で表示されます:

CVP バージョン	デフォルト JRE バージョン	サポートのためにテストされる追加 JRE バージョン
8.5(1)	1.6	1.7
9.0(1)	1.6	1.7
10.0(1)	1.6	1.7
10.5(1)	1.7	該当なし

注: 現在のインストールをアップグレードする前にサポートされた JRE バージョンをチェックして下さい。他のどのバージョンも (先にまたは以降) 前の表にリストされていないサポートされません。

CVP のアップグレード プロセス

JRE のマイナーなアップデート

[ソフトウェア ダウンロード ツール](#)は Java をアップグレードするために使用されます (たとえば、1.6.0_81 への 1.6.0_24) 。

統一された CVP サーバの JRE バージョンのマイナーなアップデートを完了するために JREUpdate.bat スクリプトを使用して下さい。たとえば、スクリプトは JRE バージョン 1.6.0_24 から 1.6.0_81 にマイナーなアップデートをします。

注: スクリプトは JRE バージョンの主要なアップグレードをサポートしません。たとえば、JREUpdate.bat スクリプトは JRE バージョン 1.6.0_81 から 1.7.0_45 にアップグレードを完了できません。

アップグレード手順

1. パーソナル コンピュータで好まれた Java Development Kit (JDK) バージョンをダウンロードし、インストールして下さい。
2. 統一された CVP サーバの既知場所にインストール済み JDK の内で利用可能な JRE フォルダをコピーして下さい。JRE フォルダは JDK インストールのルート フォルダの中で利用できます。たとえば、C:\JRE か C:\jdk1.7.0_67\jre。
3. CVP サーバの既知場所に JREUpdate.zip 内容を解凍して下さい。たとえば、C:\Cisco\CVP\bin。
4. 統一された CVP サーバの JRE バージョンをアップデートするために、コマンド プロンプトからこのスクリプトを実行して下さい:**C:\Cisco\CVP\bin >JREUpdate.bat は C:\JRE を適用します**
5. スクリプトは新しいバージョンにアップデートされる CVP JRE gets 実行し。スクリプト出力が更新済 JRE バージョンを表示したものですようにして下さい。
6. JREUpdate.bat スクリプトは C:\Cisco\CVP\jre.old で古い JRE のバックアップを奪取します。JRE の前のバックアップバージョンに戻るために、コマンド プロンプトからこのスクリプトを実行して下さい:**C:\Cisco\CVP\bin >JREUpdate.bat は戻ります**

注: CVP JRE は JConsole ツールが含まれています。JRE への正常なアップデートが、ツール バックアップ フォルダの中しか利用できなかった後- jre.old/ビン。問題をデバッグする必要があったらバックアップ フォルダ内からのツールを直接使用して下さい。

JRE の主要なアップグレード

Java をアップグレードするために (たとえば、バージョン 1.6.x から 1.7.y への)、このプロシージャを完了して下さい。

このツールは最新バージョンからバージョン 1.7.0_45 へ CVP 10.0、9.0、および 8.5 JRE をアップグレードするために作成されます。ツールは CVP サービス実行を用いるだけ CVP サーバでテストされます。CVP JRE を (C:\Cisco\CVP\jre のような) 使用する他のどのサービスもあれば、このツールはきちんとアップグレードでき、誤った記述にシステムを残すかもしれません。

対策

CVP サービスから離れて、他のサービスが CVP JRE を使用しないようにして下さい (C:\Cisco\CVP\jre の下にある)。それはこのツールを実行する前に強く推奨されています古い CVP JRE のバックアップを奪取 するために。

アップグレード手順

1. JREUpdate.zip ファイルをダウンロードし、CVP マシンのあらゆるディレクトリで解凍して下さい。解凍されたディレクトリの下、JRE ディレクトリ、JREUpdate.cmd ファイルおよび readme.txt ファイルがあるはずです。
2. 現在の CVP JRE バージョンをチェックするためにこのコマンドを入力して下さい。
C:\Cisco\CVP\jre\bin\java -バージョン
3. CVP JRE をアップグレードするため、起動 **JREUpdate.cmd**。
4. バッチファイル実行が終了したら、CVP JRE バージョンをチェックするためにこのコマンドを入力して下さい:**C:\Cisco\CVP\jre\bin\java -バージョン**ここに示されているように出力を見るはずです:

```
java version "1.7.0_45"
```

```
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.7.0_45-b18)
```

```
Java HotSpot(TM) Client VM (build 24.45-b08, mixed mode, sharing)
```

5. 古い JRE は C:\Cisco\CVP フォルダの jre.old に移動する必要があります。

注: CVP とコール スタジオの同じバージョンが常にあるはずですが、コール スタジオは JRE の以前のバージョンがあるかもしれませんが CVP に JRE の以降のバージョンがある場合うまく働く必要があります。

互換性を (顧客が所有した Java による) チェックするために、これは配備の前にラボでテストされる必要があります。

フェールバック ステップ

1. CVP サービスを停止して下さい。
2. 古い CVP JRE をつかみ、c:\cisco\cvp フォルダに置いて下さい。
3. CVP サービスを開始して下さい。